

ピエロの顔のドア

伊藤慶子

帰省より旅行かと思うおかえりと迎える母も家もなければ

ただ一度泣いて帰った故郷の味噌おにぎりの中身は筋子

バス降りてピエロの顔のドア開けて我の知らない寺山に会う

過去という引き出し開ければ唄い出す「時には母のない子のように」

その人はかつこ良かった斜にかまえはにかむ笑顔もトレンチコートも

時<sup>たが</sup>違い二人のシュウジが学びいし青森高校夏に静もる

青高の裏手に確か池ありて名前も形もおぼろになりぬ

寺山の気分になりて故郷へ転がりゆけりカンカン帽 我